

移転者対象の現場見学会を開催

平成22年12月5日(日)に殿ダム建設事業に伴い移転していた方々を対象に、完成直前の殿ダム現場見学会を行いました。

当日は55人の方が参加され、堤体頂上からの眺めや、拾石集落跡地、楠城集落地内にできた広場など、思い出の場所を巡っていただき、完成間近な殿ダムを見学されました。

移転者の多くは様変わりした現場を見ながら「どこがどこか検討がつかん」と言われながらも、山の形や見慣れた木や岩を見かけると「その山、思い出があるわ!」とか「このへんに家があった」などと、懐かしそうに話をされていました。

殿ダムは殿、拾石、楠城、神護地内に建設し、それに伴い32世帯の方々に移転していただきました。中でも殿と拾石集落は全ての世帯に移転していただきました。

平成20年には、拾石集落跡地に記念碑が立てられ、拾石集落の人々にとって、その碑の場所が唯一心の故郷となっています。



堤体の高さは75mあります。殿ダムは鳥取県で一番高いダムなんですよ!

堤体頂上で下山調査・品質確保課長の説明を聞きながら下流を眺める参加者たち。



こっちから見る神護大橋の眺めもなかなかええなあ

堤体頂上から神護大橋方向を眺める参加者たち。



皆さんの憩える場所にしたいと思いこの地に桜の木を15本植えました。皆さん春にまた来てください。

拾石跡地に建立された記念碑の前で説明する米山富久さん。



ここに拾石集落があったかあ。周りが様変わりしとるけえ、この石碑がないとわからんなあ。

拾石跡地に建立された石碑を眺める参加者たち。



現場見学会に参加された移転者の皆さん。堤体頂上にて。

殿ダム周辺地図



お問い合わせ & お便りのあて先

国土交通省 中国地方整備局 殿ダム工事事務所 とのまる通信編集部

〒680-0151 鳥取県鳥取市国府町宮下1221
TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612
http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html



「とのまる通信」



発行:国土交通省中国地方整備局 殿ダム工事事務所 鳥取県鳥取市国府町宮下1221 TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612 http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html

謹んで
初春のお慶びを
申し上げます



皆様には、平素より殿ダム建設事業の推進につきまして、多大なるご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。さて、昨年の殿ダム建設事業を振り返りますと、ダム本体関連では、堤体の盛立て及び洪水吐きのコンクリート打設に合わせ管理設備の工事の推進を図り、10月22日に堤体の盛立てを完了、12月22日には洪水吐き減勢部のコンクリート打設を完了することができました。

そして、付替道路関連では、市道楠城山崎線及び神護殿線の進捗を図るとともに、貯水池を横断する橋梁については12月16日に施工を完了させることができました。

このように、昨年は殿ダムの基本計画に定める平成23年度の完成を目指し、着実に事業を進めることができました。改めて、皆様方のご協力に感謝申し上げます。

さて、今年はいよいよ水を貯めてダム堤体や基礎地盤、貯水池周辺の地等の安全性を確認する『試験湛水』を実施します。殿ダムの完成に向けて、職員一同頑張っておりますので、何卒ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



殿ダム工事事務所長 山田啓一



ダム堤体を下流側から望む (撮影:H22年12月)

鳥取の暮らしの **安全** **安心** を守る 殿ダム

殿ダムが完成すると、千代川・袋川の市街地の洪水被害や濁水被害を軽減するとともに、工業・水道用水の確保や新たに水力発電を行うことが可能となります。

殿ダムの洪水調節のしくみとは？

- 殿ダムの洪水調節は、ゲート操作を行わず、自然に洪水を調節する「自然調節方式」です。
- 殿ダムが完成すると、ダムへの流入量が最大で400m³/秒まで達したとしても、洪水調節により下流への放流量は最大で200m³/秒に軽減できます。



殿ダムの放流警報の必要性！

- 大雨が降り洪水になった時、ダムにより洪水調節を行うことで、下流に流れる洪水の量は減ります。
- ただし、ダムからの放流により水かさが増える時があります。このような時には、事前に音声放送等で状況をお知らせします。

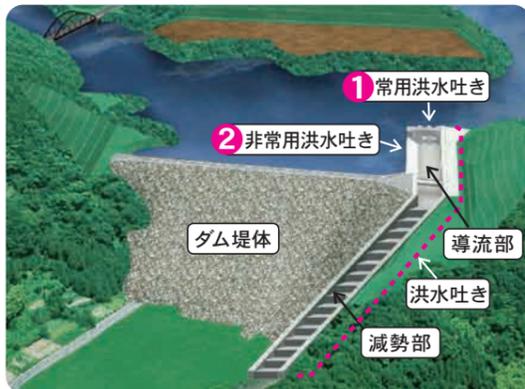


洪水吐きの自然調節の方式は？

1. 洪水をためる

- 大雨が降り洪水になると、ダムに流れ込む洪水の一部を貯水池にためながら、下流に水を流します。
- 貯水池の水位が平常時最高水位以上になると、洪水の一部を貯水池にためながら、水は常用洪水吐きの開口部を通り、洪水吐きの導流部・減勢部を流れて、下流の川へ流れます。

① 常用洪水吐き



殿ダム完成イメージ図

2. 計画規模を超える洪水の対応

- 異常な豪雨により、計画よりも大きな洪水が貯水池へ流れ込むことがあります。
- この時は非常用洪水吐きを越流し、常用洪水吐きと合わせて、洪水を下流の川へ流します。

② 非常用洪水吐き



ダムからの放流量は、ダムに流れ込む洪水量より多くなることはありません。



ダムから放流する際のお知らせ

ダムから流す水で、川の水かさが急に増えると予想される場合に、川の中にいる人や川のそばにいる人へ増水をお知らせするため、警報局を設置しています。

- ★警報局からの警報は、音声放送とスピーカーでお知らせします。
- ★放流警報に関する案内看板を設置し、増水時の警報を周知します。
- ★警報車による巡視も行いますが、警報を聞いた時は、増水に注意してください。



音声放送とサイレンでお知らせします。



皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。

サイレンの鳴り方

約60秒	約10秒	約60秒	約10秒	約60秒
サイレン	サイレン	サイレン	サイレン	サイレン
休止	休止	休止	休止	休止

● 放流警報局
● 放流警報案内看板

いよ 試験湛水開始

殿ダム工事事務所では、平成23年度末の殿ダム完成を目指し、事業を進めてきましたが、ダム堤体がおおむね完成し3月頃には試験湛水を開始する段階をむかえています。

今後、試験湛水を行いダム堤体等の安全性が確認できたのち、暫定運用に移り、平成24年度からは本格的な運用を開始する予定です。

試験湛水ってなに？

試験湛水とは、通常の管理に移る前に実際に水をためてダム堤体や基礎地盤、貯水池周辺の山等の安全性を確認するものです。

試験湛水を開始してからは、ダム堤体等の安全を確認するため、貯水池にためた水がダム堤体に作用する力や浸透する量などを計測します。

また、ダム本体やダムを管理するための機器の作動状況等の巡視・点検を行います。



浸透量の観測状況



どうやって水をためるの？

試験湛水を開始してからは、ダムへ流入する水の一部をためながら貯水位を上昇させます。



ダムに水をためる時 下流の水がなくなるのでは？

★ダム下流の河川の流量を把握しながら水をためます。満水の状態まで水位を上昇させる時は、一定の水量を流し、水量に余裕がある部分をためていきます。

★ダム下流の河川の基準地点において、維持流量を下回る場合は、ダムへ流入する水はためずにそのまま下流へ流します。

